

江戸東京博物館史料叢書 6

四谷塩町
一丁目
書役徳兵衛日録

東京都江戸東京博物館
都市歴史研究室編

目次

1	明治元年（一八六八）「日記帳」……………	1頁
---	----------------------	----

— 慶応四年（一八六八）正月元日〜明治元年（一八六八）十二月十一日 —

2	明治十六年（一八八三）「原徳兵衛取扱文書控綴」……………	71頁
---	------------------------------	-----

— 明治十五年（一八八二）九月〜明治十六年（一八八三）十二月二十五日 —

解説	近松鴻二……………	166頁
----	-----------	------

凡 例

一、本書は、東京都江戸東京博物館所蔵石井良助氏収集古文書のうち、四谷塩町一丁目（現新宿区本塩町）の明治元年（一八六八）「日記帳」（資料番号九〇三七一一七四）、明治十六年（一八八三）「原徳兵衛取扱文書控綴」（同九〇三七三九四二）を翻刻したものである。

一、翻刻にあたり、原本の様式を残すようにつとめたが、編集の都合により、原本の体裁を損なわない程度に、つぎのようにした。

1 文中に適宜、読点（、）および並列点（・）を加えた。

2 漢字は当用漢字・常用漢字にあるものは、原則としてこれを用い、ないものは正字を用いた。

3 宛字・誤字・衍字はそのまま表記して、右傍に（ママ）（衍力）を付した。正しい文字がわかる場合は、右傍に（一力）と記した。

4 変体仮名は、同音の平仮名にあらためた。ただし、方向を示す「〇〇へ」の「江」、助詞の「者」（は）、二而の而、「ヶ所」「ヶ月」のヶは活字を小さくして残した。

5 合字は平仮名に改めた。ただし、ゞ（より）メ（しめて）は残した。

6 欠損、または判読不明の文字は、□□…（字数分）、「」（字数不明）で示し、蝕損などは右傍に（虫損）（破損）と記した。

した。

7 踊り字は、漢字は々、平仮名はゝ、片仮名は、を用いた。大返しは、「く」（字数分）を用いた。

8 原文中の行間の補記は、原則として本文中に繰り入れた。

9 原文中の訂正箇所は、該当文字の右傍・左傍にゝを付し、反対側に訂正後の文字を付した。

10 意味不明箇所については、右傍に（ママ）を付した。

11 朱書は、その文言の前後に＊を付した。

12 印形は、形により㊦・㊧、割印は㊨・「印」とした。

13 後筆については判断困難なものがあるため、特に注記を行わず、原文通りの位置に示した。

14 （ ） のないルビは、原文の振り仮名である。

一、編集には、北原進（当館都市歴史研究室長）・小澤弘（同教授）・松尾美恵子（同）・近松鴻二（同歴史研究科長）・石山秀和（同専門研究員）・高山慶子（同）があたり、林貞栄（同嘱託）、鈴木洋子（地下鉄博物館）・青木一代（同）・山本高久・太田純一郎・高橋真愛の協力を得た。

一、本文の一部に階層・職業等、今日の人権意識に鑑み、差別を表わすような表現がある。もとよりこのような差別は許されるものではないが、本史料が成立した背景や記載内容を鑑み、原文のままとした。

一、なお、当館では、七階の図書室において石井良助氏収集古文書

のうち、本「日録」を含む四谷塩町関係文書を、マイクロフィルムによる閲覧を実施しているので併せて利用いただきたい。

江戸東京博物館
史料叢書 6
四谷塩町
一丁目
書役徳兵衛日録

発行日 平成十五年三月三十一日

編集 東京都江戸東京博物館
都市歴史研究室

発行 財団法人
東京都歴史文化財団
東京都江戸東京博物館

〒130-0015
東京都墨田区横網一丁目四番一号
TEL 03-3626-9918 (研究室)
FAX 03-3626-8001

印刷 勝田印刷株式会社

ISBN 4-924965-41-3C-0021